

調査船「はす」を用いた共同利用の一時停止について 2020年4月9日

今般の新型コロナウイルス問題に際し、感染により亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますと共に、当該感染症の治療に最前線で闘っておられる医療関係従事者の皆様のご尽力に心からの感謝と敬意を表します。また、緊急事態宣言に伴い多大なご苦勞に苛まれておられる皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、皆様におかれましては、平素は京大生態学研究センターの共同利用・共同研究拠点（以下、拠点）についてさまざまなご支援を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、私共の拠点は順調に成果を挙げており、多くの研究者のご協力を頂きながら、数々の優れた研究成果を挙げ、文部科学省からも高い評価をいただいております。

今般、新型コロナウイルス感染拡大は、今日に至るまで全国にわたって深刻さを増し、特に東京などの大都市における状況は極めて被害が甚大であり、かつこの状況は長期的に継続するとの専門家の見方があります。我々の拠点も、今般の新型コロナウイルス問題に対しては何らかの対応をしなければならず、先日来、さまざまな検討を進めてまいりました。琵琶湖の調査船「はす」を用いた共同利用は、広い琵琶湖の上であり、船上の換気状態は良く、また通常の湖上調査はそれほど大人数で行われるものではないので、一見、安全と思われれます。しかし、雨天になれば調査メンバーは狭いキャビンの密室に密集することになります。利用者の皆様は、さまざまな交通機関を利用されながら、全国各地・世界各国からお越しいただきます。そして何よりも、調査船による共同利用は船長と副船長あつてのものであり、お二人の安全と健康が第一優先されなければなりません。

我が国では、すでに緊急事態宣言が出されました。加えて、滋賀県は4月8日付で「医療機関への通院、食料品の買い物など、生活の維持に必要な場合を除き、外出を控える」旨の要請を出しました。このことは、今般の新型コロナウイルス問題は全国の大都市および周辺地域のみならず、滋賀県においても感染拡大が顕著な増加となり、事態の急速な深刻化を示しています。私共の調査船利用者は感染拡大地域からの方々が多く、現状のままの共同利用を継続することは、ご利用いただいている皆様のみならず、船長・副船長の安全も確保できないと考えられます。

以上の状況に鑑み、明日4月10日からゴールデンウィーク連休が終わる5月6日まで、調査船「はす」を用いた共同利用を一時停止させていただきます。ご利用者の皆様には、大変なご不便とご迷惑をおかけしますこと、心よりお詫び申し上げます。本共同利用の再開は、5月6日までの状況を見てからの判断とさせていただきます。ご理解とご了承のほど、何卒よろしくお願いいたします。なお、再開のめどが立ちましたら、皆様には改めてご連絡を差し上

げます。

私共の調査船「はす」は、水圏研究における第一歩である「湖象の現況把握とサンプル採集」を行えるものであり、共同利用の停止は研究のスタート・基礎を挫くものです。この意味で、今回の共同利用の停止は、我々に取りましても大変辛い、苦渋の決断です。私共は、共同利用を通じて、皆様と共に学問の発展に貢献したく、今後もますますの研鑽を積みながら、共同利用再開に向けて努力いたします。皆様におかれましては、私共の拠点に今後も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

中野伸一

京都大学生態学研究センター

共同利用・共同研究拠点長